

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	景観資源を観光資源として活かし、歩いて巡る 草津を実現するために必要なこと	草津市
アイデア名 (注1) (公開)	くさつ景観百選から始めるオープンガバナンス～みんなで創ろうプラットフォーム～		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	Code for Kusatsu スイーツ部		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 市民によるチーム <input type="checkbox"/> 2. 学生によるチーム <input type="checkbox"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	1 2 名		
代表者情報	氏名 (公開)	森田紀美	
メンバー情報	氏名 (公開)	奥村美佳、中西雅幸、山口陽子 山岡正明、田村昌也、清原真結 奥村春菜、八木良人、山口貴大 橋川渉、坂居雅史	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

（1）アイデアの内容（公開）

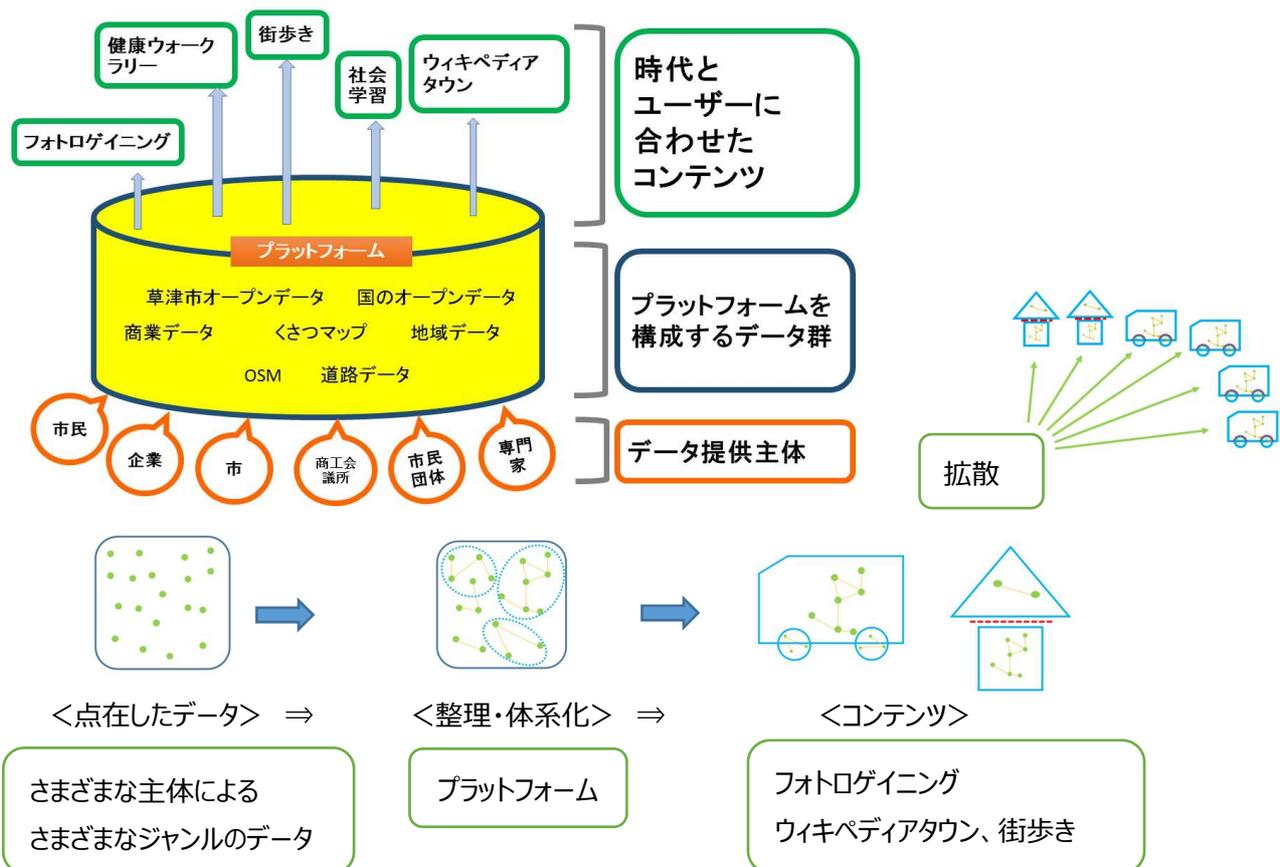
アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

くさつ景観百選から始めるオープンガバナンス～みんなで創ろうプラットフォーム～

古来より東海道と中山道の交わる交通の要所であった草津には、本陣や矢橋の渡しなどの歴史、文化、自然豊かな田園風景や、駅前の賑わいなどを地域資源として活用しようと、「くさつ景観百選」が選定された。「くさつ景観百選」をきっかけに、コミュニティが形成されて、市民参画型のまちづくりによる健康都市くさつを推進しようとした。しかし、「くさつ景観百選」を知らない市民は多く、地域資源として活かされていない。

＜その問題を解決するには、何が 필요한のか？＞

「くさつ景観百選」を活用し、楽しいイベントを企画したり、防犯や防災に役立てたり、健康増進や子育て支援につながるプラットフォームを考案した。プラットフォームは、草津の魅力を伝えたい人が自分の目的やニーズにあわせて、好きな時にスマホやパソコンで簡単にアクセスでき、カスタマイズできるもの。



＜プラットフォームの利点＞

- ・データ情報の更新や加工ができる。
- ・他の用途や自治体への汎用性が高い。

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、2 ページ以内でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

<くさつ景観百選の認知度調査（code for kusatsu アンケート調査）>

・くさつ景観百選を知っている 草津市民 100 人 5 人

※草津市でアンケート調査を実施していないため独自調査をしました。

<フォトロゲイニングや街歩きの手法をコンテンツとして取り上げた理由>

『まち散策ゲームを通じたまちの魅力の発見・共有の仕組み』の

4.3 参加者の感想より（右図）

<https://kaigi.org/jsai/webprogram/2016/pdf/712.pdf>

（出典）名古屋大学リーディング大学院推進機構本部

※アイデア実現方策例

1) 「フォトロゲイニングもどき+クイズで GO」 * 地図をもとに、時間内にチェックポイントを歩いて回り、得点を競うゲーム。チェックポイントを「くさつ景観百選」の歴史的な建造物や風景やその近所のお店に設定する。

・チェックポイントクリアの証拠に、地域の人と一緒に写真を撮り SNS にアップする。

・チェックポイントの中には地域の人が作成した草津の歴史由来のクイズを解く。クイズに正解するとポイント 5 倍とし、総合得点を競う。

（例）南笠古墳コース、矢橋帰帆コース、野路旧東海道コース、志津・ロクハ公園コース

<プラットフォームが必要な理由>

草津市では、データの公開や活用が徐々に広がっているが、草津市オープンデータサイト、くさつマップ（公開型 GIS）、景観百選ウォークマップ、市民が作成・保有した知見データなど、主体や実施事業によってデータが点在・散在している状況で、知りたい取得したいデータにスムーズにアクセスできない環境にある。

そのため、1 つの場所で様々なデータにアクセスできる場所や空間が必要

（例）・草津市オープンデータ <http://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/joho0211.html>

・くさつマップ <https://kusatsu.geocloud.jp/webgis/?p=1>

・マッピングパーティ実施データ

https://umap.openstreetmap.fr/ja/map/map_161775#16/35.0237/135.9639

・景観百選ウォークマップ

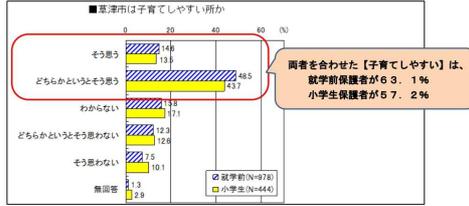
<http://www.city.kusatsu.shiga.jp/kurashi/toshikeikaku/keikan/torikumi/keikanmap.html>

<プラットフォームの期待できる効果>

① 歩くことで人と知り合い、サークルやコミュニティができて、さらに子育てしやすい草津になる。また、まちを知ることでまちに誇れるものができる。

特に参加者が面白いと感じた部分として、「自分では普段行かない場所に行くきっかけになり、行ってみると意外に楽しめて良かった」という声が多くあった。改善点としては「チーム内の体力や、進行度（多くの場所をまわり得点をあげたいのか、一箇所ずつじっくりみたいか）は合わせてある方が良かった」という指摘があった。また「リーダーがあまり反応しなかった」という指摘もあった。スポットを探す仕組みについては、特に難しさは感じないとの答えが多かった。立ち寄ったスポットに合わせてコメントがグループチャットに送信される点については、「スポットを実際に見て回ることに集中しているから、あまり見られない」という意見があった。作戦タイムの時間設定については、「必須」という声が多く、さらに「ランチの場所がルートに影響するので、何を食べるのかをチーム内で決める時間は必要である」という指摘があった。

・子育て中の保護者の約6割が「草津市は子育てしやすい」と感じています。(図表3)



(図表3) 草津市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書より

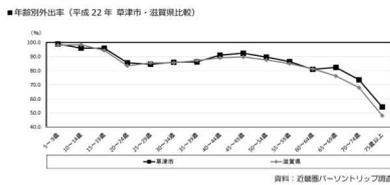
○ まちに誇れるものがあるか



資料：平成26年度 草津市のまちづくりについての市民意識調査結果報告書

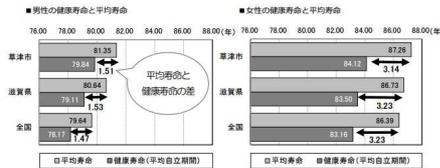
②草津市民は男女とも国より平均寿命や健康寿命は長い。イベントに参加することで平均寿命と健康寿命の差を縮めることが期待できる。また、滋賀県と比較すると高齢者の外出率は高い。一方で若い世代の外出率は減少傾向にある。イベントに参加することにより外出して、人と交流する機会が生まれる。

年齢別の外出率を草津市・滋賀県と比較すると、65歳以上の外出率は、草津市がそれぞれ5ポイントほど高くなっています。



①平均寿命と健康寿命

健康寿命は国・県よりも長い状況です。健康寿命と平均寿命についてみると、男性は国よりも長く県と同水準で、女性は国・県よりも短い状況となっています。



※以下データから算出されています。
 厚生労働省 平成22年市町村別生命表
 総務省 平成22年国勢調査 市町村別人口
 滋賀県国民健康保険健康調査委員会 市町村別健康・集約個別調査報告書(平成22年10月3日)

③楽しく歩けるイベントに参加することで、継続的に歩く機会が増え、生活習慣病や認知症の予防できる。

ウォーキングを実施することで、緊張、抑鬱、敵意、疲労、混乱といった否定的な感情は低下し、肯定的な感情である活力の上昇が見られる。

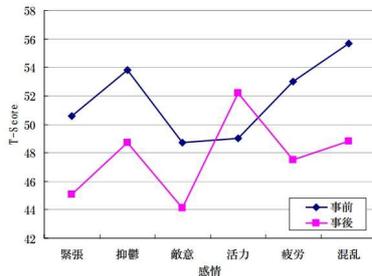


図1-1-2 (1) ウォーキングと感情の変化

出所：養内豊「ウォーキングの効用」を元に作成

ウォーキングが心身にもたらす効能

身体を正常に保ち、生活体力を維持し、生活習慣病を防ぐ。

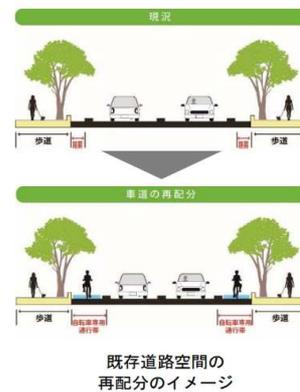
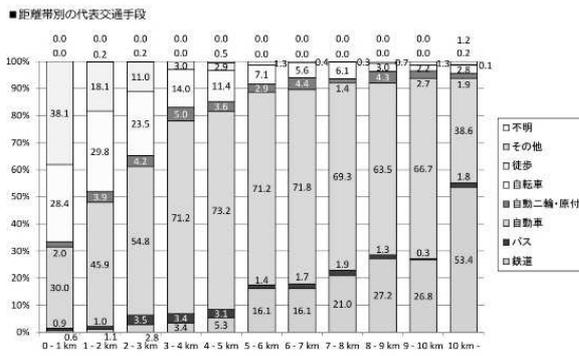
- 心臓・血管強化効果**: 冠動脈の弾力性を高め、心臓機能の向上。血圧が低下され、心臓病のリスクを減らす。
- 代謝予防改善効果**: 体脂肪を減少し、代謝を活性化。インスリンの働きを良くして内臓脂肪、高血糖、糖尿病等のリスクを低減する。
- 骨密度効果**: 骨質の強化。骨密度を高め、骨折のリスクを低減する。
- 脳活性化効果**: 脳の働きを高め、認知機能を改善する。
- 免疫力増進効果**: NK細胞を活性化し、がん細胞を抑制する。
- リラックス効果**: ストレス、不安感、「うつ」をとり、気持ち、睡眠等を改善する。
- 快調快眠快通効果**: 自律神経のバランスを整え、体調を改善する。また入浴を活性化し、通気性を高める。
- 骨太効果**: 骨質を強化し、骨密度を高めて、骨を丈夫にして骨折しにくくする。
- 府筋・正姿勢効果**: 背中の筋肉を鍛え、姿勢を改善し、腰痛を軽減する。

「歩くことに勝る良薬はない」(医学博士・ヒトケイケン、2400年前・古代ギリシャ)

図1-1-1 (1) ウォーキングが心身にもたらす効能

出所：(社)日本ウォーキング協会「人も社会も元気にするウォーキングの効用と魅力」

④クルマ社会の草津では、徒歩での移動は少なく、3～7kmの移動で自動車の利用が7割以上を占める。また、自転車道の整備が不十分なため、全国同様に人と自転車の交通事故も多い。そのため「草津市自転車の安全で安心な利用の促進に関する条例」を制定した。楽しく歩くイベントで人中心の歩いて楽しいまちづくりへの機運が醸成するきっかけをつくる。



草津市自転車安全安心利用促進計画

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

プラットフォームの活用イメージ



2018年

予算編成

- 予算化に向け準備
- 仕様検討市民参加型ワークショップ
- 市役所内のデータの棚卸
- 庁内連携の模索

1

行政と市民の
協力関係



2019年4月

プラットフォーム開発

- 市民参加型ワークショップ
属性の検討、ルート提案UIの検討 など

2



行政と市民



会場手配、広報媒体の活用、
データの発掘



ワークショップ開催経費



行政と市民（Code for Kusatsu、
地元詳しい地域の人など）



会場手配、広報媒体の活用、
データ整理



プラットフォーム構築費用、
ワークショップ開催経費

2020年2月

プロトタイプオープン

- プロトタイプのオープン



行政と市民

3

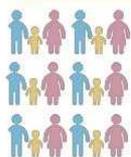
2020年4月

データの蓄積・活用

- プラットフォームを活用した
イベント開催
ex) フォトロゲイニング など

4

「使い方」の広がり



防災、教育、子育て…

活用の広がりとフィードバック

- 「使い手」の広がり
データの活用により様々な使い手が
自由な発想で使う
- 「使い方」の広がり
データを活用して様々な分野で
使う

5

「使い手」の広がり



他地域、専門家、趣味…

永遠のベータ版